

「がん」を知りそして抑える

21世紀万人が「恐れるもの」の筆頭が「がん」だという。恐れて逃げても、無茶苦茶に闘っても、問題は根本的に解決しません。相手は追いかけ、向かってくるだけです。

現代文明人の2人に1人は「がん」と共に死ぬと言われています。だったら臨終にまで付き合っただけで死んでくれる「親子」か「無二の親友」の関係ではないですか。

こう考えれば「がん」の本体を「よく知り うまく付き合う」のが良策というべきです。「歯向かう者は親でも子でも誰でも皆、排除してしまえ」というのは【共生のこころ】を失った独善的な自称・文明人の悪い癖です。

私達人間は約60兆の細胞で構成されていることは既に周知された事実です。

先祖(父母)から頂いた遺伝子を持った受精卵細胞一個が細胞分裂を繰り返してようやく達成できた兄弟細胞が共生する個体(子孫)です。しかも個々の細胞レベルでは個体が死ぬ(個体死)まで細胞は新陳代謝し、『細胞分裂』でRenewalを繰り返しているのです。

細胞の分裂・増殖・分化・共生・老化・死こそ【生命体の基本】です。

すなわち私たちの「いのち」は支える身体の構成要素である『細胞』の分裂・増殖・分化・共生そして老化・死により、その恒常性・存続性が維持されているのです。

換言すれば、細胞の分裂・増殖・分化・共生・老化・死こそ生物に欠かせない

【生命維持の基本的メカニズム】なのです。

【がん】とは“多細胞生物個体全体(社会)の恒常性(秩序)を破り、自律性を持って無制限に増殖を重ねる細胞集団である”と定義されます。言わば“正常細胞社会の無法者”です。

即ちがんの病因は“細胞分裂傷害”という私たち生物の原点に根ざす基本的問題であり、私たちそのもの“私達のコピー(子孫)の悪しき独善的生き様”そのものなのです。

どんな社会(例えば家庭)にも、その構成員の個々をみれば必ず無法者(歌舞伎者)の一人や二人はいるように、生きている限り私たちの身体では何時でも何処でも健康な細胞に混じって無法者(暴れ者)の【癌細胞】が多少(毎日5000個ほど)は誕生しているのです。

この個々の無法者が社会の秩序を破り際限なく蔓延り集団化し社会を危機に落とし込む“組織暴力団化”しないように人間社会は教育や警察を始めとする様々な自衛手段を準備工夫しています。私たちの生体も同じこと「悪性細胞」の集団化を抑える様々な「自衛監視機構」を永い年月かけて進化発展させてきています。これが【自然免疫機構】です。

この生体に本来備わった『疾病防禦機構』を最大限に活かし切ることが、【がん】対策の<最良の方策>であり、<最先端の医療>なのです。予防に勝る治療はないのです。